

氏名： 中村 美奈子  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 准教授  
学位： 芸術学士（東京藝術大学）、人文科学修士（お茶の水女子大学）  
専門分野： 民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー  
E-mail： nakamura.minako@ocha.ac.jp  
URL： <http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Nakamura/index.html>  
<http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/buyou/>

#### ◆研究キーワード / Keywords

舞踊人類学／舞踊記譜法／インドネシア／舞踊動作分析／舞踊のアーカイブ  
Anthropology of Dance / Labanotation / Indonesia / MotionCapture / DnaceArcive

#### ◆主要業績

総数（5）件

- ・ Minako Nakamura, Hiroko Uchida, Kazuya Kojima: Art-Science fused research on Iwasaki Onikenbai-Focused upon the action of "cutting zai", Journal of Korean Dance History, No.10, The Society of Korean Dance History, pp279-293, 2009
- ・ 中村美奈子, 「バリ島の音楽と舞踊における共創コミュニケーション」, 『舞踊学』, 第32号, 舞踊学会, pp59-63, 2009
- ・ Minako Nakamura and Kohji Shibano : The Digital Archive of the Works of Ms. Tastue Sata, a leading Japanese creator of Modern Ballet, The 26th Biennial Conference of International Council of Kinetography Laban/Labanotation (ICKL) , Bangkok, Aug.2009 (E)
- ・ 中村美奈子, 門 行人：創作バレエ作家佐多達枝の創作過程のドキュメンテーションとアーカイブ化, 2009年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会（立命館大学G COEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」と共催）, 於立命館大学, 2009年6月6日

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

筆者は、インドネシア・バリ島の舞踊などアジア地域の民族舞踊を研究対象とし、その舞踊の技法、表現特性、舞踊構造の分析を行っている。2009年度は、5月にソウルにて開催された韓国舞踊史学会において日本の剣舞に関する招待発表を行った。また、昨年度より継続の基盤研究（C）「日本の創作バレエ作家に関するドキュメンテーションとアーカイブ化？佐多達枝を中心に」の研究代表者として、タイで開催された国際会議「

」において、佐多達枝の舞踊の制作過程に焦点を当てたアーカイブ制作に関する口頭発表を行い、参加者らと意見交換を行った。また、国内では、立命館大学GCOEの客員研究員として、アート・ドキュメンテーション学会との共催による年次大会においても研究発表を行った。また、外部資金により、「モーションキャプチャ技術を用いた舞踊動作の筋骨格シミュレーション」としてモーションキャプチャとSIMMを用いた舞踊動作の質的分析を行った。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

舞踊教育学コース所属の学生らのほとんどは、バレエやモダンダンスなど西洋の芸術舞踊を実践してきている人たちである。筆者の教育目標は、さまざまな身体表現、舞踊表現が世界には存在すること、また、舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた表現様式をもっていること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能をも果たしていることを講義や実技を通して学生に伝えることである。2009年度は、常設の専門教育科目に加えて、前期に「基礎ゼミ?」と「舞踊学特殊講義（舞踊記譜法）」の授業を行った。後者は、ルドルフ・ラバンの開発した身体運動の記譜法である Labanotation を実際に身体を動かしながら理解していくものである。大学院の授業では、民族舞踊学（舞踊人類学）の古典である Spencer の “Society and the Dance” と近年出版されたデジタルアーカイブに関する英語の論文集の新旧2つの文献の購読を行い、文化人類学の基本的な考え方と、最新テクノロジーを用いた舞踊研究手法について考察を行った。

## ◆研究計画

文化人類学から情報学までさまざまな領域の研究者らとの学際研究を通じて、舞踊および身体表現に関する研究を行ってきた。今後も幅広く身体文化、身体表現、身体運動の解明にかかわる研究をしていきたいと考えている。また、無形文化財のデータベース（アーカイブ）化、特に舞踊や身体表現に関するデータのアーカイブ化についての研究は事例が少なくメタデータの整理も進んでいないことがプロジェクト研究を通して分かってきたので、これらの点についても検討を行っていきたい。

## ◆メッセージ

舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた多様な表現様式があること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能持つものもあることを是非みなさんにも知ってもらいたいと思っています。同時に、バリ島の舞踊は見ていると緩やかで楽しそうですが、実は中腰の姿勢で踊るのはいかにきついかということを是非実技授業で体験してください。「伝統的」な舞踊の研究をしている私ですが、実は大変な新しいもの好きで、共同研究のほうでは、1998年頃からずっとモーションキャプチャという装置で舞踊の3次元計測をしてきています。舞踊とデジタル技術がどうつながるのだろうと不思議に思われる人もいるかもしれませんが、この方法論は、現在では、舞踊学の一分野のようになっています。